

第212回 大阪小児科学会

◇◇ プログラム ◇◇

■ Aセッション(13 : 00~13 : 24)

座長 瀬戸俊之 (大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学)

1. 著明な低身長症を合併した摂食障害の1女児例

大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学¹⁾, 同 神経精神医学²⁾

島崎真央¹⁾, 西垣五月¹⁾, 小田桐紫野¹⁾, 日下博登²⁾, 濱崎考史¹⁾, 新宅治夫¹⁾

2. 小児の摂食障害に対してNST介入を行った3症例

大阪市立大学附属病院 小児医療センター 看護師¹⁾, 同 小児科²⁾, 同 栄養部³⁾,
同 薬剤部⁴⁾

岡本綾子¹⁾, 徳原大介²⁾, 藤本浩毅³⁾, 伊瀬 薫¹⁾, 谷脇広嗣¹⁾, 和泉那菜¹⁾,
須田泰記⁴⁾, 広瀬正和²⁾, 田村有希乃¹⁾, 新宅治夫²⁾

■ Bセッション(13 : 24~14 : 12)

座長 吉田寿雄 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)

3. 呼吸器症状で発症した縦隔腫瘤症例の検討

大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科

仁谷千賀, 石井裕子, 中村さやか, 山崎夏維, 岡田恵子, 藤崎弘之, 原 純一

4. 全身型若年性特発性関節炎再燃との鑑別に血清中インターロイキン18測定が有用であった急性特発性心外膜炎の一例

大阪医科大学 小児科¹⁾, 淀川キリスト教病院 小児科²⁾,

社会医療法人清恵会 小児科³⁾, むらた小児科⁴⁾,

金沢大学医薬保健研究域医学系 小児科⁵⁾

武田摂子¹⁾, 岡本奈美¹⁾, 杉田侑子¹⁾²⁾, 進藤圭介¹⁾³⁾, 謝花幸祐¹⁾, 村田卓士¹⁾⁴⁾,
片山博視¹⁾, 玉井 浩¹⁾, 清水正樹⁵⁾, 谷内江昭宏⁵⁾

5. 当院で経験した乳児期早期発熱の原因ウイルスとその臨床像

社会医療法人愛仁会 高槻病院 小児科¹⁾, 社会医療法人愛仁会 千船病院 小児科²⁾,
同 小児集中治療科³⁾

阿部真也¹⁾²⁾, 近藤 淳¹⁾, 松井美樹¹⁾, 甲斐智彦¹⁾, 森 雅啓¹⁾, 北原 光¹⁾,

中田あゆみ¹⁾, 福嶋志穂¹⁾, 松田卓也¹⁾, 大西 聡¹⁾³⁾, 橋村裕也¹⁾, 起塚 庸¹⁾³⁾,

林 振作¹⁾, 内山敬達¹⁾, 南 宏尚¹⁾

6. 当院での血液培養陽性例についての検討

大阪府済生会千里病院 小児科

上田桃子, 吉田敏子, 森本恭子, 瀬戸眞澄

■ Cセッション(14 : 12~14 : 48)

座長 柏木 充 (市立ひらかた病院 小児科)

7. 歩行困難と両下肢痛を主訴に来院したギランバレー症候群の4歳女児例
関西医科大学 小児科学講座¹⁾, 関西医科大学卒後臨床研修センター²⁾
保田真宏¹⁾, 山内壮作¹⁾, 吉田知紘²⁾, 木全貴久¹⁾, 野田幸弘¹⁾, 荒木 敦¹⁾,
金子一成¹⁾²⁾
8. 頭部外傷を契機に脳静脈洞血栓症を合併した一例
社会医療法人 愛仁会 高槻病院 小児科¹⁾, 同 小児脳神経外科²⁾,
同 小児集中治療科³⁾, 同 小児神経センター⁴⁾
豊福真未¹⁾, 阪本大輔²⁾, 原田敦子²⁾, 山本和宏¹⁾, 福嶋志穂¹⁾, 大西 聡¹⁾³⁾,
起塚 庸¹⁾³⁾, 宇都宮英網⁴⁾, 山崎麻美²⁾
9. ケトン食療法により発作頻度が減少したDravet症候群の1女児例
大阪大学大学院医学系研究科 小児科学¹⁾,
大阪大学医学部附属病院 てんかんセンター²⁾,
大阪大学大学院 連合小児発達学研究所³⁾
廣恒実加¹⁾²⁾, 山下朋代¹⁾²⁾, 渡辺陽和¹⁾²⁾, 谷河純平¹⁾, 岩谷祥子¹⁾²⁾³⁾,
富永康仁¹⁾²⁾³⁾, 下野九理子¹⁾²⁾³⁾, 青天目 信¹⁾²⁾, 大藪恵一¹⁾²⁾

■ 総 会(14 : 48~15 : 00)

議長 小垣 滋 豊 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)

教育講演(15 : 00~16 : 00)

座長 金 太 章 (大阪市立住吉市民病院 小児科)

「子どもの貧困 ～周産期からの気づきと支援～」

佐藤 拓 代 (大阪府立母子保健総合医療センター 母子保健情報センター)

■ Dセッション(16 : 00~16 : 36)

座長 杉本 圭 相 (近畿大学医学部 小児科)

10. 1ヵ月健診時に発見された先天性ネフローゼ症候群の1例
大阪市立総合医療センター 小児総合診療科¹⁾, 大阪府済生会中津病院 小児科²⁾,
和歌山県立医科大学 小児科³⁾
山入千春¹⁾, 久富隆太郎¹⁾, 上田博章¹⁾, 藤丸季可¹⁾, 熊谷雄介²⁾, 中西浩一³⁾
11. 診断に苦慮した母乳による乳児消化管アレルギークラスター3の1例
愛仁会 高槻病院 小児科¹⁾, 同 小児集中治療科²⁾, 愛仁会 千船病院 小児科³⁾
松井美樹¹⁾, 福嶋志穂¹⁾, 大西 聡¹⁾²⁾, 起塚 庸¹⁾²⁾, 内山敬達¹⁾, 南 宏尚¹⁾,
西野昌光¹⁾³⁾

12. 6か月間アトピー性皮膚炎患者にステロイド外用剤を用いずに経過観察した前向き研究
佐藤小児科¹⁾、鶴舞公園クリニック²⁾、阪南中央病院皮膚科³⁾、木俣肇クリニック⁴⁾、
藤澤皮膚科⁵⁾、堂園メディカルハウス⁶⁾、上尾ニッ宮クリニック⁷⁾
佐藤美津子¹⁾、深谷元継²⁾、佐藤健二³⁾、山田貴博³⁾、木俣 肇⁴⁾、藤澤重樹⁵⁾、
堂園晴彦⁶⁾、水口聡子⁷⁾

■ Eセッション(16 : 36~17 : 12)

座 長 永 井 利三郎 (プール学院大学短期大学)

13. 低線量放射線障害の検討ー1 福島県甲状腺本格検査の分析
入江診療所¹⁾、たかまつこどもクリニック²⁾、はやし小児科³⁾、医療問題研究会⁴⁾、
大阪赤十字病院 救急部⁵⁾
入江紀夫¹⁾、高松 勇²⁾、林 敬次³⁾、伊集院真知子⁴⁾、山本英彦⁵⁾
14. 低線量放射線障害の検討ー2 福島と近隣5県、千葉・埼玉・東京で周産期死亡が増加
はやし小児科
林 敬次
15. 低線量放射線障害の検討ー3 福島原発事故後の避難者健康相談会を5年間取り組んで
たかまつこどもクリニック¹⁾、医療問題研究会²⁾、入江診療所³⁾、はやし小児科⁴⁾、
大阪赤十字病院 救命救急センター⁵⁾
高松 勇¹⁾、伊集院真知子²⁾、入江紀夫³⁾、林 敬次⁴⁾、山本英彦⁵⁾

- A～Eセッションは講演各6分、討論各6分とし、教育講演は講演50分、討論10分とします。

第6回「低線量被ばくを考えるセミナー」

日 時：2016年12月10日(土)

大阪小児科学会(大阪市大医学部付属病院5階講堂)終了後開催。

学会終了後、同じ会場で引き続き開催いたします。講演と質疑で約2時間を予定。

「低レベル放射線被曝影響：分かっていることとよく分からないこと」

講 師：今 中 哲 二 先生(京都大学原子炉実験所)

講師紹介：今中哲二先生は、原子力工学の専門家です。大学院時代より日本の原子力開発の在り方に疑問をもちはじめ、研究者としては、原子力を進めるためではなく原子力利用にと
もなうデメリットを明らかにするための研究に従事してこられました。広島・長崎原爆による放射線被曝量の評価、チェルノブイリ原発事故影響の解明、福島原発事故による放射能汚
染調査と周辺住民の被曝量評価などを行っておられます。国際共同研究にも携わられ、まさにこの分野での、わが国において、また国際的にも第一人者でおられます。当日は、さまざま
な研究事実から、福島原発事故による現在の放射能汚染調査と周辺住民の被曝量評価などをどう見るかを語っていただきます。そして、今後、わが国の子どもたちにどのような影響
を考えていかなければならないかに関して、小児医療を担うものとして問題を深めていき
たいと思っています。ご参加いただけることを心より願っています。

主催：大阪小児科学会地域医療委員会